令和４年度事業報告書（案）

おひさまこども園

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 質の高い乳幼児教育・保育事業の充実

ア．外部環境

令和３年度４月より幼保連携型認定こども園に移行後２年経過し、幼稚園と保育所の機能を併せ持ち地域の子育て支援も行う施設として、コロナ禍で子どもたちの発達に必要な保育環境をどのように保障するかが園内での課題となり、大事なものを精査しながらの保育事業の取り組みとなりました。

イ．重点課題に対する取り組み

・子どもたちの安全を保障するための感染防止対策を徹底した上で、子どもたちが通常の生活・遊びができるように、密を避けることを課題としながらも、子どもの成長・発達の為の保育の工夫や機会を得ることを第一に取り組みました。

・行事等の見直しや、感染防止対策に則った保護者への働きかけを促し、説明責任を果たしました。

・環境（人的環境・物的環境）を通して子どもの発達を保障する保育（見守る保育）の理論と実践を学ぶ研修においては、今年のテーマを「しぜん」とし、それぞれの年齢に応じた自然に関する子どもたちの気づきに焦点をあて、保育に落とし込み、その気づきを合同研修発表会で「見える化」することで、それぞれの保育教諭の質を上げる取り組みができました。

・子ども一人ひとりの発達について定期的に保育指針に則った発達チェック（未満児は毎月、以上児は３カ月毎）を行い、それをもとにチームミーティングを頻繁に行うことにより、チーム間での連携を深め子どもの発達にあった環境を用意することができました。

(2) 発達障害、情緒障害のある児童に対する支援体制の強化

ア．外部環境

発達障害の特性を持つ子どもの増加により、一人ひとりに応じた細やかな支援が必要であるが、園内だけでは保護者を含めた対応が難しいことが多く専門家や専門機関とのより深い連携が必要です。

イ．重点課題に対する取り組み

・学校心理士の定期的な訪問により、園児の観察・相談を行い、カンファレンスを行うことによって職員の発達障害への対応の知識や実践について学び、保護者の相談に同席することで対応についても学ぶことができました。

・園内研修では学校心理士による講話を受け、子どもの心理と発達の知識、スキル等について学び、実践に活かしながら、また他施設の支援事業との連携に繋げていきました。

(3) 地域・家庭との連携強化

ア．外部環境

・法人の経営理念である「地域共生」と、認定こども園の重要な役割である地域においての子育て支援事業を融合し、コロナ禍においての実施方法を模索していきました。

イ．重点課題に対する取り組み

・コロナ禍において制限された世代間交流事業においては、出来る限りの実施の方法を模索し、「愛と結の街」と連携を取りながら、玄関先や庭先等戸外でわらべ歌や伝承遊びの交流やプレゼント交換、リモートでの交流など、お互いに顔の見える交流が実施できました。

・地域に開かれた園を目指して園便りを地域の回覧板で配布し、園での保育内容や子育て事業として発信していることへの理解を頂けるよう工夫しました。

・地域への買い物体験を通して、地域の人々に園の存在や園児の存在を認識してもらい、交流が密になるように働きかけをしました。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数)定員 123 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男児	8人	10人	9人	13人	8人	18人	66人
女児	5人	9人	16人	10人	8人	10人	58人
計	13人 (13人)	19人 (21人)	25人 (22人)	23人 (18人)	16人 (28人)	28人 (19人)	124人 (121人)
割合	10.5%	15.3%	20.2%	18.5%	12.9%	22.6%	100.0%

( )は前年度実績

※0 歳児については、育児休暇明けの入所が月毎に増え一年を通して変動があった。
(他の年齢は年間を通じほぼ一定数)

(0 歳児月別在籍数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	5人	5人	8人	8人	9人	10人	9人	9人	10人	10人	10人	10人	103人
女児	2人	4人	4人	4人	4人	3人	5人	5人	6人	6人	6人	6人	55人
計	7人 (9人)	9人 (9人)	12人 (10人)	12人 (10人)	13人 (11人)	13人 (11人)	14人 (11人)	14人 (13人)	16人 (13人)	16人 (13人)	16人 (13人)	16人 (13人)	158人 (136人)

( )は前年度実績

(年間延べ人数)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
R3年度	136人	255人	264人	216人	333人	235人	1,439人
R4年度	158人	227人	299人	276人	192人	336人	1,488人
前年比	＋22人 116%	-28人 89%	＋35人 113%	＋60人 128%	−141人 58%	＋101人 143%	＋49人 103%

(2) 保育事業

	保育計画	実　　践	反省・課題
0歳児	･一人ひとりの生活リズムを大切にしながら生理的欲求を満たし、愛着形成の元、安心して過ごせるようにする。 ・衛生的で温かい環境の元で、健康に過ごせるようにし、情緒の安定を図る。	･1歳児と一緒に生活する中で、同年齢同士や1歳児との関わりなど子ども同士の関係性を持てるようにした。 ・子どもたちの発達を保障する環境を意識して整えた。特に自然を意識し、自然と触れ合える機会を多く持った。	・一人ひとりの欲求を満たしながらゆったりとした生活リズムを心掛け、その中で生活の場に応じて、1歳児との関わりを取り入れることで子ども同士の刺激が大きく、見て真似ながら成長に関わることができた。
1歳児	･安心できる保育者との関わりや自ら活動したくなるような環境の中で過ごし、基本的な生活習慣を獲得しようと意欲を持つ。 ・戸外遊びを多く取り入れ、自然との関わりの中で興味・関心を広げる。	･子どもたちの五感を刺激し、意欲的に活動できるような様々な遊びを工夫して保育を行った。 ・コロナ禍を考慮し、できるだけ戸外での活動を多く取り入れた。子どもたちの歩行が安定してくると、積極的に園外保育(散歩)も取り入れた。	・子どもたち一人ひとりの発達を理解し、意欲を高めるための活動を工夫した。特に自然を意識して触れ合える活動を多く持ったことで、探求心の基盤となる意欲の育ちが見られた。
2歳児	・基本的な生活習慣を身に付け、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ･自由に活動できる安全な環境の中で友だちと関わって楽しく遊ぶ。	・基本的な生活習慣が身に付くような援助や自分でやってみようとする意欲を高める為、興味のある遊びを工夫する環境づくりを行った。 ・自然物への関わりの機会も多く持つことで、子どもたちの個性へとつながっていった。	・遊び（ゾーン）の種類をひろげ個に応じた対応を心がけることで、子どもたちの興味関心の幅も広がり、個性につながる安定した活動が工夫されていた。
3歳児	・さまざまな体験を通し、いろいろな物事に興味や関心を持ち、自主性を育てる。 ･保育者や友だちとの関わりの中で、安心感を持って遊びや活動に取り組む。	･基本的生活習慣を身につけるとともに当番活動に参加し、意欲を持てるようにするための保育の工夫を行った。 ・体を動かし、自然と触れることを楽しめるような戸外あそびや園外保育を多く実施した。	･年上の友だちと一緒に当番活動をすることで、自然に覚えていくことも多く、また年上の友だちとのつながりもでき、そこから遊びも広がっていく様子が見られた。異年齢児保育ならではの活動も多く取り入れられた。
4歳児	･自分の思いだけでなく、相手の気持ちを考えたり感じたりしながら人間関係を深め、集団としての行動ができるようにする。	･様々な当番活動に取り組みながら年上の子から教えてもらったり、年下の子に対しての興味関心が高まりお世話したりすることの喜びを感じていた。 ・力を合わせることを楽しむ遊びや活動を多く経験した。	・年長児と組みながら当番活動をすることで、真似ることから身につけられるように工夫した。 ・友だち間でのトラブルも時々見られたので、友だちの思いに気づき、自分で考えられるような関わりを工夫した。
5歳児	・人との関わりの中で、社会生活に必要な態度(社会性)や基本的生活習慣を身に付け、自主性を育てる。 ・自分の思いを言葉で表現したり、友だちの思いを認めたりしてその思いを大切にしながら生活や遊びに取り組む。	･就学に備えた基本的な生活習慣を身につけ自立できるような援助を行い、子どもたちが主体的に生活・遊びができるような環境設定を行った。 ・人との関りを大切にすることから、01歳児クラスへの手伝いには多く参加し、食事の世話や玩具の消毒等や手洗いの補助等の活動も体験し、貢献する喜びにつながるような工夫をしていった。	・行事の計画や実施等様々な活動を自分たちの力で組み立て実施する経験が自信につながっていった。 ・コロナの状況により中断することもあったが、年長児としての自覚も芽生え、年下の子のお世話をすることで自分たちの自信にもつながっていった。

(3)　給食事業

主な計画	実　　践	反省・課題
・献立の立案	・地産池消を取り入れ、地域の特産を生かして料理や食材の旬を生かして料理を味わえるような献立を工夫した。 ・幼児食の他に離乳食の献立を成長に応じて作成した。(初期・中期・後期)	・咀嚼や噛む力などの発達を考え、素材や調理法を工夫した献立を取り入れることができていた。
・給食検討会の実施	・毎月１回栄養士・保育教諭・管理職で会議を開き、喫食状況や食への子どもの意識、食の場の環境について話し合った。	・全クラスの子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善を図った。
・嗜好調査の実施	・園での食育への取り組みが家庭でどのように反映されているか家庭での食生活の調査をし、家庭での様子を知ることにより、食事や健康面での情報を提供し、献立に反映させた。	・給食や食育に対しての感想・意見等もたくさんいただき、励みにもなった。
・食育の年間計画立案	・年間計画に伴い野菜作りや収穫を行ったり、調理前の旬の食材に触れたり食べたりすることで、季節感を味わった。 ・クッキングも多く取り入れ、作って食べる楽しさも味わえた。	・子どもが取り組む野菜の種まきや収穫の様子などを月毎の食育体験として掲示したり、園だよりやホームページで知らせたりして、園の食育の認知を図った。
・アレルギー除去食の提供	・アレルギーを持つ子どもへ代替メニューの提供と配膳トレーの分別を行った。	・離乳食・アレルギー食の子どもの把握、メニューについて保育教諭と栄養士・調理員で周知徹底し連携をとることで、誤飲誤食を防止できた。
・共食の実施	・5歳児が、01歳児と月２回一緒に食事をすることにより、食事の介助をしたり交流を持ったりする共食はコロナの状況により、10月頃から取り入れることができた。	・前年度コロナにより取り入れることのできなかった共食は、秋口から取り入れ、未満児にとっても年長児にとってもいい体験になった。

(4)　地域交流事業

	事業名	実　　践	反省・課題
5月 7月 10月 11月 12月	世代間交流事業	・愛と結の街の方々との交流 コロナ禍のため、室内ではなく施設の前の戸外での交流が主であった。 ・手遊び歌、わらべ歌 ・七夕飾りの交換 ・お手玉あそび ・お絵かきをしながらの交流 ・クリスマスプレゼントの交換 (お年寄りのハーモニカ演奏)	・前年度はコロナを考慮して、玄関先でのプレゼント交換のみや、リモートでの交流であったが、今年度はwithコロナということで、両施設の担当者で話し合い、直接の交流で、できることを試してみた。お互いの顔をみながら交流できることを工夫し活動したことで、お年寄りの笑顔をたくさんみることができ、子どもたちもとても喜んでいた。
	育児支援事業	・園内にたくさんの人が集まる育児懇談会や外部の人が入ってくる子育て支援事業は実施できなかった。 ・入園予定のための園見学は感染防止対策を徹底しながら実施した。	・実際に集まることができなかったため、在園児保護者にはICTアプリにて動画で本園の理念・各クラスの保育について説明した。 ・外部の方からも園庭開放を望む声も届くことがあるため、現段階でできることを模索していきたい。

※　異年齢事業(小学生対象)においてはコロナ対策により全面的に中止した。

(5)　幼児保育相談事業

日　　時	内　　容	対応・反省
第１回　７月 14 日（木） ７月 15 日（金） ７月 16 日（土） 第２回　12 月 17 日（金） ～12 月 18 日（土）	（学校心理士　野田弘一先生） ・８名の園児の観察 ・個々の行動観察と関わり方について　各クラス職員と面談 ４名の保護者と発達相談 ・保護者との面談を受けてのカンファレンス ・園内研修 「これから求められる園運営と保育者の姿」 ・５名の園児の観察 ・個々の行動観察とかかわり方について　各クラス職員と面談（観察児５名） ・保護者３名と発達相談 ・保護者との面談を受けてのカンファレンス（報告）	・発達が気になる子どもの観察を通して、子どもの発達の理解・対応について学ぶことができた。また、職員研修時にカンファレンスを実施したことで、参加職員全員で情報を共有することができた。 ・職員研修時に「これから求められる園運営と保育者の姿」として、目の前の子どもの思いを受け止める資質の大切さや子どもの心理と発達の知識とスキルがあることの大切さについて学んだ。実践に生かしていきたい。 ・保護者との面談にも保育士一人が同席し、その後のカンファレンスで内容の発表をした。カウンセリングの方法も傍で体得している。保護者面談時に繋げていきたい。

(6)　実習受け入れ

学校名・人数	実習期間	日　　数	目　　的
鹿児島中央看護専門学校　　18 名	R4/6/27～10/6	4 日間	小児看護学実習
鹿児島女子短期大学２年２名	R4/8/16～8/27	10 日間	保育実習
鹿児島女子短期大学２年１名	R4/10/11～10/22	10 日間	保育実習
鹿児島純心女子短期大学１年１名	R5/2/6～2/18	11 日間	保育実習
鹿児島女子短期大学１年１名	R5/2/15～2/28	11 日間	保育実習
鹿児島医療技術専門学校　　５名	R4/10/17～10/20	4 日間	小児看護学実習
鹿児島医療技術専門学校　　４名	R4/10/24～10/27	4 日間	小児看護学実習

3. 苦情・相談

計　　画	内　　容	対応・反省
･保護者からの相談・苦情を広く受け付けるために、日々の連絡帳や苦情箱から苦情をひろいあげ、HP 上に公開する。 ・相談苦情解決責任者・受付担当者・第三者委員を決定し、公表する。 ・保護者には入所時また保護者懇談会時に「相談苦情申出窓口」についての紹介を行う。	①　絵の具で汚れた服の返却の仕方、伝え方について ②　年長児の行事の話し合いについて	①クラスの対応の確認を取ったあと、きちんと処理をしていたにも関わらず、保護者に伝えもれがあったため苦情につながったので、報・連・相をしっかりしていくことを再確認する。 ②園長面談において保護者の思いを受け止めたのち、子どもの成長した様子を伝えることで納得して頂けた。

4. 防災訓練

計　　画	実　　施　内　　容	反省・課題
◎毎月、防災・避難訓練を行う ・毎月消火訓練も行う ・年２回脇田分遣隊立ち合いの訓練を実施	◎毎月、防災・避難訓練を行う ・火災避難訓練（年５回） （脇田分遣隊２回）⇒延期 （第二避難所まで避難１回） ・地震避難訓練（年４回） ・津波避難訓練（第三避難所まで避難） ・台風避難訓練 ・不審者避難訓練 （市安心安全課の指導派遣有り）	・脇田分遣隊立ち合いの避難訓練を実施し、アドバイスをもらう。 ・地震の際は隣地のブロック塀の危険性を認識し、避難経路を考慮する。 ・地震時には防災頭巾を使用した訓練を実施 ・来年度以降は避難用滑り台を使った避難を多く取り入れる。
◎月３回安全点検（園舎・園庭）を行う	◎月３回園内の安全点検 （保育教諭２名１組で実施） ・安全点検のマニュアルに沿って	・破損個所は早めに報告するように徹底する。
◎災害用品の購入	◎防災・災害用品購入 AED　　１台 非常時食品	・緊急時に備え、AED を購入。 地域の人たちにも AED を常設している場所として知らせていく。
◎保護者へ避難所の提示	◎重要事項説明書・園しおりに記載・入園説明会にて説明	

5、会議及び研修

(1)　研修計画（園内）

主な計画	実　　践	反省・課題
◎園内研修	･一円対話･クラスミーティング、全体研修を交代に月ごとに１回ずつ繰り返し、いろんな面から保育の質を高める研修をすすめる。(すべての研修において FT5 人が担当) ・全体職員研修を４月・７月・２月に実施	・一円対話での聞く姿勢や共感力を、チーム内や園全体でのコミュニケーションにつながるように、クラスミーティングでも話しやすい環境づくりをする必要がある。 ・FT の５人が研修係として３時間の職員全体の研修を組み立てる。全員が主体的に参加し、チームでの連携も深めるような研修が実施できた。また係で振り返りも行い次年度の課題に繋げることができた。
◎七園合同研修（月 1 回）	○藤森先生講演会（4 月） ○こども主体の保育を一緒に学ぶ園、7 ケ園において、見学研修やリモートで研修を実施した。（各園、保育士主体） 2 月には全国実践大会の計画から当日の運営まで各園代表者が担い、各園の保育士も参加することで実践発表を各園に落とし込むことができた。	・令和４年度は同じ保育を目指す園との見学実習において深い学び合いを行ったが、コロナの状況により途中より中止となった。しかし、全国実践大会の準備・運営・研修への参加を通して、保育の質をあげるための学びを深めることができた。

(2)　会議

会議名	回　数	延べ参加人数	会議内容	参加職種
職員会議	12 回	120 名	翌月の行事・研修・共通理解	園長・副園長・保育教諭・栄養士・主幹・事務
危機管理会議	12 回	72 名	毎月の事故状況・発生防止策	園長・副園長・主幹・保育教諭
給食検討会	12 回	72 名	喫食状況・献立、食育検討	園長・副園長・栄養士・保育教諭
担当者会議	不定期	80 名	行事等の準備・計画・実施	各担当者
管理者会議	6 回	24 名	理念の確認･園内状況の把握･	園長・副園長・主幹２名
リーダー会議	６回	48 名	理念の確認・チームの連携 各チームの報告・相談	主幹２名・チームリーダー

6. 年間行事報告

毎月の行事	実　　践	反省・課題
誕生会	・月により行事と抱き合わせてそれぞれの担当がリズム室と保育室で分かれて実施した。（毎月保育教諭２名が担当）	・大人数の密をさけるため、未満児と以上児に分かれ、実施する。集団が苦手な子は保育教諭がそばにいて個別に対応し無理なく進められた。
避難訓練	・月により地震や火事、不審者など災害の種類を変え、実施時間も様々な時間帯に設定し、また時間を職員にも伝えず実施し対応力を訓練する機会を多く持つようにした。	・第二、第三避難所までの避難も実施したが、災害に備えての地域との連携作りを強化する必要がある。
設備点検	・設備点検マニュアルに従い、毎月３回担当保育教諭２名が点検を行った。	・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡し、改善を図った。修繕箇所が年々増えているので計画的な対応が必要である。
一日保育士	・コロナ対策により年長児のみ実施した。	・年長児は園での最後の様子を見て頂く機会として、参加できる時に参加して頂く方法をとることで保護者にも喜ばれた。

月	主な計画	実　　践	反省・課題
４月	進級式	・４月１日に在園児の進級式を行い、４月の誕生会では新入園児を紹介し、入園を祝った。	・３月より新体制で保育を行っているが、４月１日に改めて行うことで、新しい担任も認識し、進級した実感がわいたようだった。
５月	交通安全教室 保護者懇談会	・担当保育士がそれぞれの発達に応じてわかりやすい交通安全教室を実施した。 ・保護者を園に集めての懇談会は中止。携帯アプリにて動画を配信し園についての紹介を実施した。	・保育教諭が子どもたちの注意をひきつけながら楽しく交通安全教室が実施できた。 ・昨年度から取り入れた ICT 機能を使い、クラスの保育の特色をつたえることができた。
６月	健康診断 歯科検診 運動会	・コロナの状況をみながら時期を少し遅らせたが予定通り実施できた。 ・２歳児以上保護者２名までの制限をつけて午前中で終わるように実施した。年長児が様々な係を担い、子ども主体の運動会を実施した。	・密を避け、風通しの良いところで実施した。 ・２歳児から参加種目が終わり次第に親子で降園となったため、密になることもなく、競技を楽しむことができた。
７月	プール遊び開始 七夕まつり	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。（７月～８月）	・安全に気をつけることを第一にし、保育教諭で連携を取りながら実施することができた。
８月	夏まつり	・年長児を中心に夏祭りの計画を立てて準備をし、全園児を招待するミニ夏まつりを保育中に実施した。	・年長児が考えたゲームについて年中児・年少児も保育活動中に一緒に準備することで意欲をもって活動することができた。
９月	十五夜	・誕生会と合わせて十五夜の行事についてわかりやすく伝えた後、つなひきを実施し、日本の文化に触れることができた。	・おひさま農園で収穫した里芋もお供えで飾り、また団子づくり等クッキングに繋げることもできた。
１０月	秋の親子遠足 ハロウィン大会	・平川動物公園に現地集合、昼食なしの現地解散としたが、動物をみながらのスタンプラリーを実施、親子・友だち同士で楽しむ姿が見られた。	・家族によっては昼食を持参し、解散後も楽しむ方も多かったが、園行事として有意義な時間を持てた。
１１月	発表会 おいもほり 焼き芋大会	・各年齢の子どもたちが無理をせず、発達に応じた表現する姿を保護者の前で堂々と披露することができた。 ・おひさま農園で育てていたサツマイモの芋ほりを実施し、２週間後に園庭で焼き芋大会を実施した。	・クラスごとに時間をずらし、２日間に分けて実施した。0～1 歳児においては普段の姿を見て欲しいという思いで、保護者と一緒に体験型の発表会となったが、子どもの成長を直に感じられて保護者も嬉しそうだった。 ・消防署に届けを出して、初めて園庭で薪や落ち葉を使った焼き芋大会を行った。下準備から焼いている時の見守り、食べるまでを体験することで、自然に歌を歌いだすなどわくわくした表情がたくさん見られた。

12月	笹貫商店街会買い物体験	･2歳児・年長児が商店街の買い物体験を実施した。	・2歳児は買い物体験からクッキングへの意欲につなげ、年長児は自分たちでお金のやり取りをする体験を行えた。
1月	七草	・春の七草、由来を話した上で給食の七草粥をいただく。	・七草の由来を丁寧に伝えていた。
2月	節分の行事	・年長児が準備・計画し、小さい組は保育室で、3 歳児以上はリズム室で節分の豆まきを楽しんだ。	・年長児がどのような節分にするか話し合い、計画を立て、準備を進めていった。ほとんど子どもたちだけで実施した企画であり、泣いた子どもを慰める役などもいて、子どもたちの成長を感じた。
3月	ひなまつりの行事 お楽しみ遠足 入園説明会 お別れ会 卒園式	・リズム室に飾ってある雛人形を囲んで実施。 ・お楽しみ遠足は亀ヶ原公園の予定だったが、前日の雨の影響で急遽笹貫公園まで徒歩で行き実施。 ・コロナの状況を考慮し、日数・時間を分けて実施した。 ・卒園児の紹介・挨拶後プレゼント交換をし、お祝いする気持ちで送り出すことができた。 ・マスクが個人の判断となったことで、保護者の大半がマスクなしで参列した。子どもたちに向ける表情もよく見えて感動的であった。	・ひな祭りへの興味を深める手立てが出来ていた。 ・雨の後の地面の状態により下見をして急遽場所変更を行ったが、連携もスムーズにいき、子どもたちは存分に楽しむことができた。 ・日程・時間を分け、一回につき上限を4組とし、コロナ予防対策に留意しながら実施できた。 ・短時間でも気持ちが伝わる会にしようと、みんなで工夫して実施した。 ・保護者は2名まで、職員も人数制限をかけ、短時間でも気持ちのこもった卒園式を実施することができた。

7. 設備計画

月　日	工事名　・　品名	内　　容
R4. 4月25日	ロールスクリーン取り付け工事	平成20年度から設置されていた事務所・1階ホールのブラインドカーテンをロールスクリーンに取替
R4. 5月27日	冷凍冷蔵庫購入	既存のものが老朽化で故障の為購入
R4. 6月 1日	園庭　シェードネット	園庭の環境設営
R4. 6月20日	メッシュテント	プール置き場の環境設営
R4. 7月 4日	わくわくマリンプール　2台	保育・教育環境の整備
R3.10月19日	デスクトップパソコン　2台	ICT化対応 子どもの教育環境整備

8. 職員管理

(1) 入職者　正規職員　3名（保育教諭2名　栄養士1名）
　　非常勤職員　3名（保育教諭1名　調理員1名　派遣事務員1名）

(2) 退職者　常勤職員　2名（調理員2名）
　　非常勤職員　1名（保育教諭1名）

(3) 産休・育休職員　正規職員2名（保育教諭1名・事務員1名）

(4) 職員体制（令和5年3月31日現在）

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園　長	1名		1		
副園長	1名	1			
主幹保育教諭	2名	2			
保育教諭	23名	12	5	6	うち1名育児休暇中
看護師	1名	1			
栄養士	2名	2			
調理員	2名		1	1	
事務員	2名	1		1	うち1名育児休暇中
施設係	1名			1	
計	35名	19	7	9	